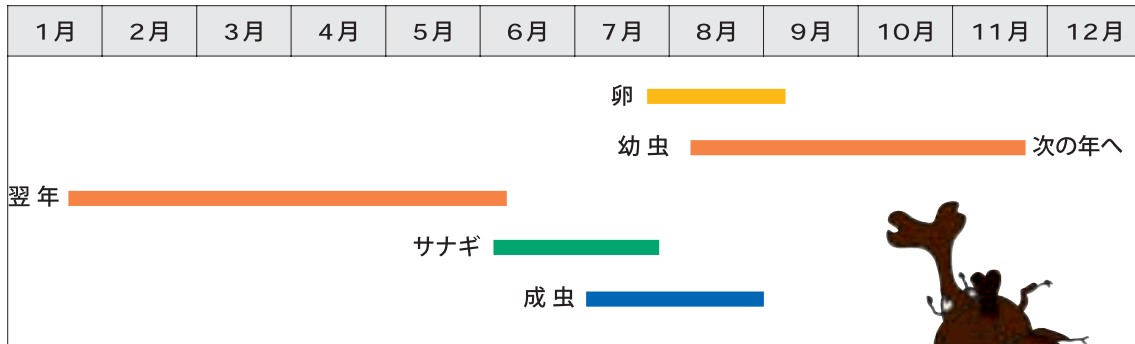


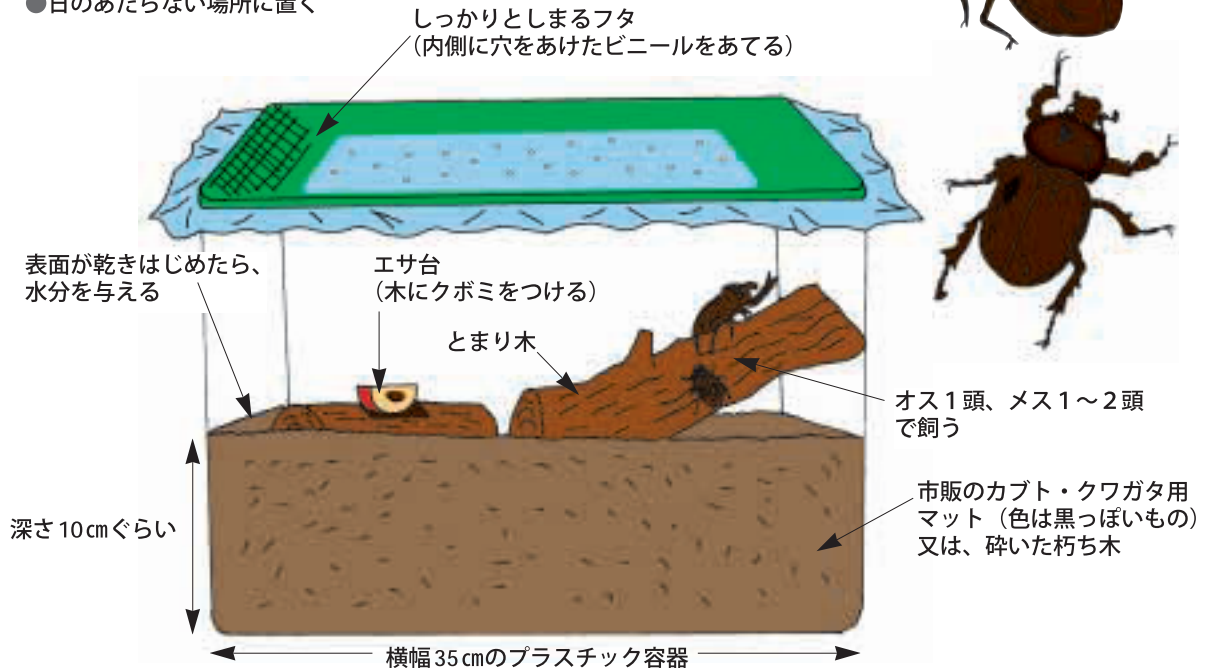
[カブトムシの飼いかた]

◎カブトムシの一生



◎成虫の飼いかた

- 日のあたらない場所に置く



●カブトムシの扱い方

むやみに手でさわると、早く死にます。

●エサについて

エサは、リンゴ、バナナ、市販の昆虫ゼリー、糖蜜などを与える。糖蜜は、黒砂糖（500g）を少量の水で煮つめ、日本酒（100cc）と酢（50cc）を混ぜたものを使います。エサは、4～5日に1回取り替えればよいが、果実は腐りやすいので、2～3日に1回取り替えます。

●容器に入れる数

成虫の寿命は、1～2ヶ月くらいです。35cmプラスチック水そうにオス1頭、メス1～2頭程度で飼います。オスを2頭以上入れると、ケンカをして早く死にます。

●その他注意点

- ・カブトムシは乾燥に弱い虫です。マットの表面が乾いたら、きり吹きなどでしめらせる。
- ・体にダニがついたら、ハブラシでこすって取り除きます。
- ・成虫は主に夜に活動するので、夜に観察すると交尾やエサを食べるのが見られます。

卵と幼虫の管理

成虫が死んだら、マットの中に卵や幼虫がないかを探してみましょう。

【卵・幼虫の有無を調べる】



新聞紙の上に、そっとあけて、卵・幼虫をさがす。

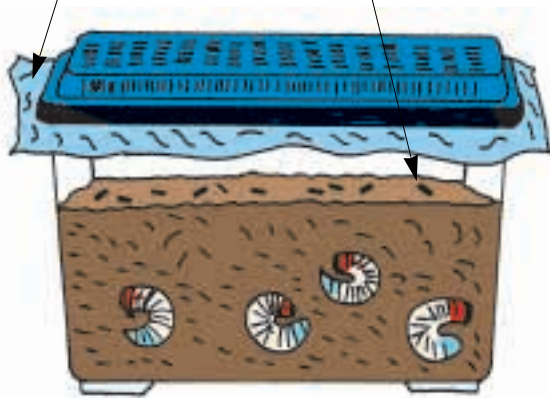
幼虫がいたら



【幼虫のかいかた】

フタの内側に、穴をあけたビニールをあてる（水分を保つため）

幼虫のフンがふえたら、エサをかえる（表面でフンをすることが多い）



35cmのプラスチック水槽なら、5cm以上の幼虫が4匹ぐらい飼える

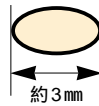
エサの水分は手で握って団子になるくらいが適当

サナギの管理

幼虫は4月になると、再びエサを食べ始めるので、20日に一回はエサの交換をしてください。5月下旬～6月になると幼虫はマットの中で「蛹室」という部屋を作り、その中でサナギになります。蛹室をこわすとうまく羽化できないので、5月下旬以降は羽化するまで絶対にさわらないことが大切です。

【卵と小さな幼虫のかいかた】

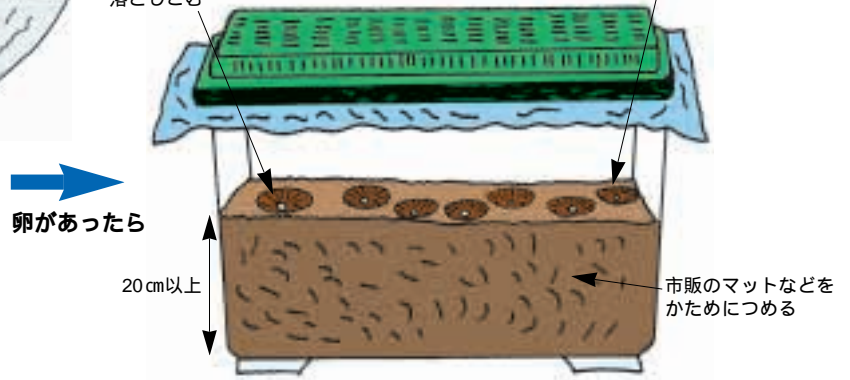
産みつけられた卵



ふ化が近づくと大きくなる（直径5mmになる）

スプーンで卵をすくって、表面にくぼみをつけて落とす

卵から幼虫がかえると、自分でもぐる



卵があったら

20cm以上

市販のマットなどをかためにつめる

35cmプラスチック水槽で10匹程度かえる

幼虫のエサ

幼虫のエサは、市販のマット、くだいた朽ち木、又は腐葉土です。マットは黒めで細かいものがよいです。

9月中旬までは食べる量が少ないので、エサをかえなくてもよいです。しかし、9月下旬以降になると、食べる量が増えるので、11月中旬まで20日に一回はエサの交換をすること。

冬の管理

容器は、暖房のきかない所（車庫・玄関など）に置くこと。冬、幼虫はエサを食べなくなります。表面が乾かないように水分を与えます。

【カブトムシのサナギ】

